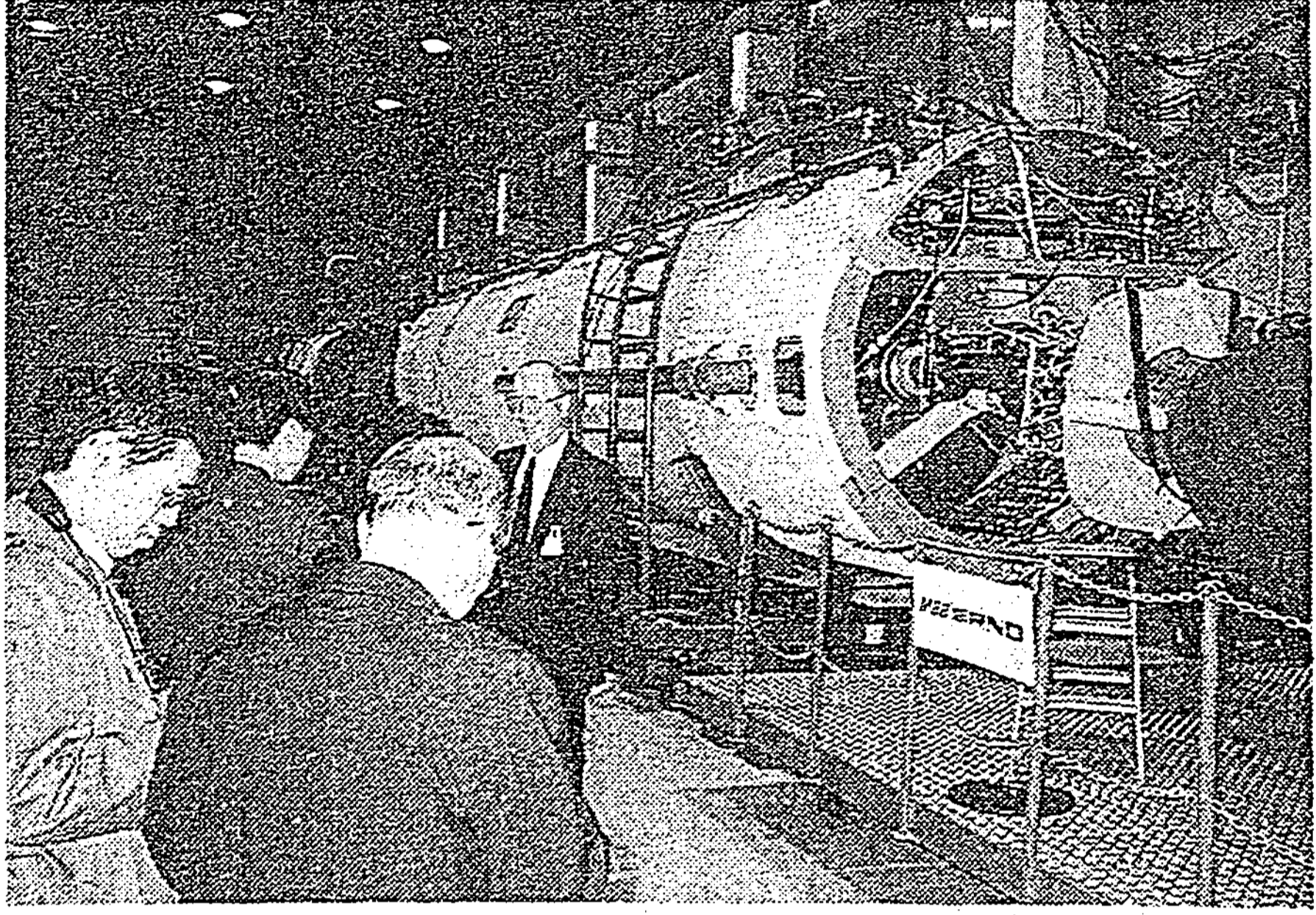


# 十勝毎日新聞

発行所  
十勝毎日新聞社  
〒080 帯広市東1条南8丁目  
電話=編集 22121、広告 23223、経務・販売 22222  
©十勝毎日新聞社 1987

## 欧州の宇宙開発

およそ一週間にわたった「欧州宇宙基地」(コロンバス)の視察を終えて、次計画もこの国の提案だ。その目的は、西ドイツに着いた宇宙環境利用を、この国の大の十五日夜、既成日が暮れ、大きな視察テーマに据えてもおのりの景色は見えぬ。ジュカシクはない。



アリアンロケットの補助ブースター組み立て工場

国製小型ロケット「スカウ」を打ち上げ、微小重力実験「クワ」を使用、モジュール(実験機設備搭載部)も自分たちで設定して行っています。プログラムを「TEKUS」(テキサス)ロケットは直径五十六センチ、全長十二メートル、再使用型で、これをウエーデンのキルナ基地から二百五十センチの高さに発射、飛行中に生じる微小重力状態を利用し、医薬品精製や新素材開発などの各種材料実験を実施している。

## 日本企業からの申し込みも

「大樹でも事業化」  
時間的には、最高六分間までの継続的な実験が可能。それ以下の場合には、三秒まなら「タワ」からの落下、二十秒までの飛行機での対応をい

「モジュール当たり二十万ドル」(約千六百万円)

「コスト減がカギ」  
松本団長は「宇宙ビジネス自体は伸びる。あとはいかにコストを抑えるかが一つのポイントとなる。本道で小型ロケットを打ち上げる場合も、リモコン操作による元の位置への回収、リニアモーター

「MBB-エル社」  
メックの第一製造工場を担当して、実験「フットホム」ユーレカ(主契約者)水産産着型(次世代スペースプレーン)最大航空宇宙産業メーカー「ゼンガー」の研究所、開発を「DVL」協力して行っている。

## 微小重力実験

## 成功度高く需要多い

「西ドイツの宇宙活動は、ロケット、衛星分野より宇宙環境利用の分野で目覚ましい」  
「そのうえは西ドイツは、航空宇宙企業、MBB-エル本道でも小型ロケット打ち上げで実施しようとしている。微小重力実験の先進地。先にBによる微小重力実験についてSA(欧州宇宙機関)の三天は、このうちMBB-エル計画の一つに正式承認された社で詳細が聞けた。

「各種の材料実験」  
同社「プレメン」工場は、アリアンロケットの組み立て、衛星生産などを行っている宇宙分野の工場。会議室に通い微小重力実験は、当社が英

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

「皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。皆さんが聞きなりました。」

年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第6部